

総会報告

第 22 回通常総会報告

日 時：平成 16 年 3 月 10 日(水) 13 時 30 分～ 14 時 30 分

会 場：本郷瀬川ビル(東京都文京区本郷 2 35 10)

出席社員数：93 名(内委任状 70 名)

(社員数総数：101, 総会成立の定数 52 名以上)

議 案：

- (1) 平成 15 年度事業報告 [第 1 号議案]
- (2) 平成 15 年度収支決算書報告 [第 2 号議案]
- (3) 平成 16 年度事業計画 [第 3 号議案]
- (4) 平成 16 年度収支予算 [第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件 [第 5 号議案]
- (6) 平成 16 年度役員の内 [第 6 号議案]
- (7) 平成 16 年度評議員の内 [第 7 号議案]

議 事：

午後 2 時, 定款第 24 号に基づき江尻正員会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 22 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第 1 号議案】

平成 15 年度 事業 報 告
(自平成 15 年 1 月 1 日 至平成 15 年 12 月 31 日)

I 庶 務

1. 会員状況

	(平成 15 年 12 月 31 日現在)	(平成 14 年 12 月 31 日現在)	増減
名誉会員	7 名	7 名	0
正 会 員	2,945 名	2,895 名	50 名増
学生会員	1,084 名	1,063 名	21 名増
賛助会員	69 団体 (99 口)	68 団体 (98 口)	1 団体増 (1 口増)

2. 第 21 回総会

会 期：平成 15 年 3 月 11 日(火)

会 場：弓町クラブ大会議室

出席社員数：93 名(うち委任状提出：68 名)

(正社員総数：101 名, 総会成立の定数 52 名以上)

議 題：平成 14 年度の事業・決算案, 平成 15 年度の事業計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・監事の選任の件, 評議員の選任の件

上記について審議し, 議決した。

3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援

- (1) シンポジウム, 講演会, 講習会等 10 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 13 年を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 86 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 13 件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：末廣尚士)
- (2) 欧文誌委員会 (委員長：田所 諭)

- (3) 事業計画委員会 (委員長：高梨伸彰)
- (4) 国際委員会 (委員長：中内 靖)
- (5) 第 21 回学術講演会実行委員会 (委員長：広瀬茂男)
- (6) 第 17 回論文賞・第 18 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：内山 隆)

- (7) 第 8 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：中野栄二)
- (8) 出版事業委員会 (委員長：小林 宏)
- (9) ロボット工学ハンドブック改定委員会 (委員長：増田良介)
- (10) 電子化運営委員会 (委員長：中野栄二)
- (11) 国際化検討委員会 (委員長：内山 隆)
- (12) アドバイザリーボード (委員長：吉川恒夫)
- (13) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：吉川恒夫)

5. 役員および評議員の選出

平成 15 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

6. 評議員会, 理事会

- (1) 平成 15 年 9 月 21 日(日)に第 21 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。
- (2) 平成 15 年度中に 10 回理事会を開催し, 会務の審理と処理を行った。

7. フェロー, 名誉会員の選任

10 名のフェローを選任した。

8. 電子化運営委員会

- (1) ロボット学会ホームページをリニューアルした。
- (2) Web 上で行える会員サービスの充実を図った。

9. 事務局

- (1) 電子化運営委員会と連携し, 会員サービスとして各種関連行事案内を推進した。
- (2) 学会の将来ビジョンの考察を深め, 中長期的な事務局体制について検討した。

II 事 業

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第 21 回学術講演会

期 日：2003 年 9 月 20 日(土)～ 22 日(月)

会 場：東京工業大学大岡山キャンパス

組 織：組織委員長： 廣瀬茂男(東工大)

実行委員長： 米田 完(東工大)

プログラム委員長：松野文俊(電通大)

発表件数：586 件

12 パラレルセッション

一般セッション： 57 セッション

オーガナイズドセッション：19 セッション

合計 76 セッション

特別講演会：講師 川崎和男氏

テーマ「ロボット形態論と身体論(ロボットデザインの基礎学の提案)」

特別セッション 3 件

パネル討論「ロボットを起爆剤とした企業化・自治体での産業活性化」

招待講演「実用化されたロボットとその特許」

パネル討論「高品質ロボット試作と工業集積ポテンシャルの活用」

参加登録者数：1,298 名

(正会員 614 名, 学生会員 523 名, 非会員 22 名, 学生非会員 121 名, 招待者 18 名)

(2) 文科省科研費補助・研究成果公開事業

「最先端ロボット大集合」一般公開

期 日：2003 年 9 月 21 日(日)

会 場：東京工業大学講堂

内 容：人間型ロボット，惑星探査ローバ，宇宙構造物歩
行移動ロボット，レスキューロボットの各テーマ
についての技術の解説とロボットの実演．

参加者数：800名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第18回シンポジウム「ハイパワー・ロボティクス」

期 日：2003年1月22日(水)
会 場：工学院大学
講 師：水沼 渉(三菱重工業)，柴沼 清(日本原子力
研究所)，大谷圭一(防災科学技術研究所)，三神
泉(三菱電機)

オーガナイザ：上野隆雄(東急建設)
参加者：17名(会員：9名，会員外：7名，学生：1名)

(2) 第19回シンポジウム「デジタルヒューマン基板技術」

期 日：2003年3月5日(水)
会 場：産業技術総合研究所 臨海副都心センター
講 師：原田悦子(法政大学)，河内まき子(産業技術総
合研究所)，持丸正明(産業技術総合研究所)，赤
澤堅造(大阪大学)

オーガナイザ：宮田なつき(産業技術総合研究所)
参加者：60名(会員：35名，会員外：14名，学生：11
名)

(3) 第20回シンポジウム「バイオ応用ロボティクスの現状と将来」

期 日：2003年4月11日(金)
会 場：東京理科大学神楽坂校舎
講 師：新井健生(大阪大学)，高橋清也(農業技術研究
機構)，谷川民生(産業技術総合研究所)，新井史
人(名古屋大学)，三原孝士(オリンパス光学工
業)

オーガナイザ：新井健生(大阪大学・研究専門委員会主査)
参加者：33名(会員：21名，会員外：7名，学生：5名)

(4) 第21回シンポジウム「ビジョンシステムの基礎と応用」

期 日：2003年6月6日(金)
会 場：東京理科大学神楽坂校舎
講 師：白井良明(大阪大学)，中村洋一(川崎重工業)，
塙 圭二(富士重工業)，河本献太(ソニー)，片
山保宏(航空宇宙技術研究所)

オーガナイザ：西田信一郎(航空宇宙技術研究所)
参加者：87名(会員：40名，会員外：17名，学生：30名)

(5) 第22回シンポジウム「ロボット教育」

期 日：2003年7月23日(水)
会 場：工学院大学
講 師：松日楽信人(東芝)，中村仁彦(東京大学)，林原
靖男(桐蔭横浜大学)，田中孝之(電気通信大学)，
十時 伸(富士通大分ソフトウェアラボラトリ)，
藤田雅博(ソニー)

オーガナイザ：高梨伸彰(NEC)
参加者：32名(会員：23名，会員外：2名，学生7名)

(6) 第23回シンポジウム「水中ロボット技術の動向」

期 日：2003年9月3日(水)
会 場：工学院大学
講 師：浦 環(東京大学)，小池敏和(三井造船，メ
カトロセンター)，鈴木正憲(日立製作所)，磯崎
芳史(三菱重工業)，山本郁夫(三菱重工業)

オーガナイザ：伊藤智之(東芝)
参加者：43名(会員：20名，会員外：17名，学生：6名)

(7) 第24回シンポジウム「環境問題とロボティクス・メカトロニクス・IT」

期 日：2003年10月8日(水)
会 場：工学院大学
講 師：大道武夫(名城大学)，大林成行(国土情報技術
研究所)，玉木浩二(東京農業大学)，沼口栄助

(飛鳥建設)，辻 雅哉(NTT東日本)

オーガナイザ：酒本晋太郎(新菱冷熱工業)
参加者：9名(会員：6名，会員外：1名，学生：2名)

(8) 第25回シンポジウム「ロボットと最適化」

期 日：2003年11月26日(水)
会 場：工学院大学
講 師：山川 宏(早稲田大)，吉村充孝(京都大学)，中
村政俊/後藤 聡(佐賀大学)，浜松 弘(安川
電機)，熊谷好高(三菱電機)，田中啓文(CRC
ソリューションズ)

オーガナイザ：掃部雅幸(川崎重工業)
参加者：36名(会員：25名，会員外：7名，学生：4名)

3. 共催事業

(1) 第8回ロボティクスシンポジウム

期 日：2003年3月17日(月)~18日(火)
会 場：館山寺温泉(浜松市)
組織実行委員長：松丸隆文(静岡大学)
プログラム委員長：佐野明人(名古屋工業大学)
発表件数：4パラレルセッション 93件
参加者数：168名

(2) ロボカップジャパンオープン2003新潟

期 日：2003年5月1日(木)~5日(月)
会 場：朱鷺メッセ(新潟県新潟市)
主 催：NPO ロボカップ日本委員会，ロボカップジャ
パンオープン2003新潟実行委員会
実行委員長：松原 仁(はこだて未来大学)
日本ロボット学会賞：Nagaoka Fireworks(長岡技術科学大
学)，Fusion(福岡大学・九州大学・桐木工作所)

(3) 第15回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2003年6月21日(土)~22日(日)
会 場：仙台市科学館(仙台市青葉区)
主 催：ロボット競技会実行委員会，メカトロで遊ぶ会
実行委員長：中野栄二(東北大学)
日本ロボット学会会長賞：Greifer(Visual GCC Ver3.0，東北
大学)

(4) 第3回レスキューロボットコンテスト

期 日：2003年8月2日(土)~3日(日)
会 場：よみうり文化ホール(大阪府豊中市)
主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会
実行委員長：大須賀公一(京都大学)
日本ロボット学会賞(ベストロボット賞)：SUBちゃん
(T.R.R.L.)(津山工業高等専門学校)

4. 出版事業

「新版ロボット工学ハンドブック」の査読結果に基づいて執筆者へ原稿修正を依頼し，その回収を進めた．

III 学 会 誌

学会誌第21巻1号より8号を発行し，会員に配布した．各号の特集のテーマは次の通りである．

Vol. 21	No. 1	気になるコンポーネント	125頁
Vol. 21	No. 2	創立20周年記念学術講演会 I	97頁
Vol. 21	No. 3	創立20周年記念学術講演会 II	109頁
Vol. 21	No. 4	福祉とロボティクス	125頁
Vol. 21	No. 5	月・惑星探査ローバ	120頁
Vol. 21	No. 6	ロボットのオープン化・モジュール化・ネットワーク化技術	116頁
Vol. 21	No. 7	次世代アクチュエータ	131頁
Vol. 21	No. 8	モジュラーロボット	118頁

平成15年度は，会誌編集プロセス，査読プロセスの見直しを行い，それぞれの作業の効率化，安定化を検討した．会誌編集に関しては，前年度からの特集号企画の遅れがほぼ解消し，全体として，順調に発行を行った．また論文査読プロセスについては，改善に関して前年度に大筋の合意が得られているが，検討すべき課題も多いので本年度は次年度実



施に向けて議論を進めた。

学会の電子化に関して従来は実務部分を会誌編集委員会の電子化小委員会が担当していた。しかし、その体制では、責任、権限の所在が不明確であるし、担当委員の個人的な負担が多いということで体制の見直しを行った。まず、上位組織である電子化準備委員会を電子化運営委員会として発足させ、電子化に関する権限を明確にした。そのうえで会誌編集委員会として電子化小委員会の充実を行い、積極的に電子化に取り組める体制を整えた。具体的には、まず会誌に関するホームページに関しては、ハンドリングを会誌編集委員会に権限を委譲され、編集委員会でホームページを容易に活用できるようにした。また編集委員会の各小委員会の委員長は電子化小委員会に属し、必要であれば各小委員会の権限で担当するホームページをハンドリングできるようにした。さらに電子化運営委員会との連携を強化し、情報発信としての会誌ホームページの充実だけでなく、会誌編集、査読などのプロセスに関しても電子化による効率化、ホームページにおける広告掲載など検討した。

IV 欧 文 誌

1. 欧文誌編集・発行

Vol. 17 を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

Vol. 17 No. 1 特集号: Multi Agent System Design

Vol. 17 No. 2 特集号: Selected Papers from IROS 2001 "Humanoid Robots"

Vol. 17 No. 3 特集号: Advanced Multi Modal Tele Systems

Vol. 17 No. 4 一般論文

Vol. 17 No. 5 一般論文

Vol. 17 No. 6 特集号: Surgical Assistant Robotics

Vol. 17 No. 7 一般論文

Vol. 17 No. 8 特集号: Selected Papers from IROS 2002

Vol. 17 No. 9 一般論文

Vol. 17 No. 10 特集号: Advanced 3D Vision and Its Application to Robotics

2. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

2003年度は、投稿者にとっての魅力向上のために、投稿後16週以内に最初の査読結果を返却するという計画を立てて実行するとともに、それを積極的に宣伝した。また、LaTeXのスタイルファイル、MS Wordのテンプレートを整備し、Webページに掲載した。その結果として、一般投稿論文数(特集論文以外の論文数)が2002年度の51本から、2003年度には75本に、47%増加した。

Institute for Scientific Information (ISI)社のCitation Indexの評価(インパクトファクター)を高めるためには、被引用数を増やすことが重要である。そのため、特集号には今後クオリティの高いサーベイ論文を掲載していくこととし、Webページに論文引用を容易にするためのデータを掲載した。また、分野別インデックスを掲載し、それらをリアルタイムに更新していくための準備を開始した。

一般論文の投稿件数が毎年増加していることから、Advanced Roboticsは国際的な学術論文誌としての認知がますます高まっている。欧文誌に掲載されることが、各論文執筆者の業績評価につながる指標(Citation Indexなど)獲得の点で有利なことを今後積極的にアピールしていきたい。

それに伴う問題として、編集に要する事務量が比例して増大しており、事務処理の効率化を図るとともに、業務委託契約の見直しが必要である。

3. 欧文誌編集委員会の国際化

欧文誌編集委員会のメンバーを大幅に国際化した。第1回国際編集委員会を国際会議IROS 2003にに合わせて2003年10月23日に開催した。国際編集委員会は、特集号の企画を担当することとなった。

4. 共同事業者との連携強化

欧文誌発行の共同事業者であるBrill/VSP社との連携を強化した。特に年1~2回両者が会合を持って将来展望や実務的な打ち合わせを行う体制を整え、今年度は2003年6月27日にアムステルダムで会合を開き、現状での問題点を解決策と今後の事業展開について意見交換を行った。

昨年まで問題となっていた発行の遅れは、ほぼ完全に解消されるとともに、日本ロボット学会のロゴの改定に伴う表紙デザインの変更に迅速

に対応するなど、関係強化の効果が着実に現れている。

5. 購読の勧誘、および、国際会員の入会勧誘

前年度に引き続き理事会の下に国際化検討委員会(委員長:内山副会長)を設けて本学会の国際化に伴う諸問題の検討を行った。特に、欧文誌を学会の国際化の有力な目玉としてアピールし、外国人の正会員の獲得に努力した。具体的には、入会案内パンフレットを作成し、国際会議などで約1,000部を配布した。その結果として、若干数の購読・入会の申し込みがあった。そこで明らかになった問題点を修正して、新たなパンフレットを10,000部印刷した。今後さまざまな機会をとらえて広く配布していく予定である。

学生会員の会誌選択制を制度化して、外国人学生への入会勧誘の障壁を緩和した。

6. 事務効率化、経費節減を目的とした電子化の推進

早期に投稿プロセスを電子化することを目的として、電子投稿の試行を開始した。さらに、委員の協力を得て、投稿管理システムの問題点を整理し、プログラムの更新とその試行を行っている。具体的には、査読者の集中を避けるための履歴管理機能、投稿者への手紙を自動生成するなどの機能を追加するとともに、使いやすさを向上させた。

V 企 画

1. 調査・研究専門委員会活動

・ロボット研究20年が果たした役割と今後の展望に関する調査研究委員会

(委員長:大道武生, 2002.1発足)

平成15年度に以下の調査・研究専門委員会を設置した。

・ロボット聴覚研究専門委員会

(委員長:奥乃 博, 2003.7発足)

・学術講演会調査研究委員会

(委員長:小林 宏, 2003.7発足)

2. 規約等の制定・整備

前年度に引き続き、表彰関連の規程の整備を実施した。研究奨励賞について、選考時期が4月からだったものを3月末までに選考が終了するように表彰規定を変更した。受賞者のうち修士課程修了者の場合、4月から身分の変更がある場合が多く、事務手続きで住所、会員資格などの把握に手間取っていたものを卒業時に把握できるようにした。また、表彰対象講演会(ロボティクスシンポジウム)の開催前に委員会を開催することで、さまざまな制度変更の迅速性を高めることを考慮した。

3. 表彰等

2003年9月開催の第21回学術講演会において、以下の論文賞3件、実用化技術賞2件、研究奨励賞11件の授賞を行った。また、ファナックFAロボット財団の論文賞に3件を推薦し、内2件が論文賞(賞金100万円)を獲得した。

【論文賞】

・前野隆司, 広光慎一, 河合隆志(慶應義塾大学)

「曲面弾性フィンガの固着・滑り分布推定に基づく把持力の制御」

(第19巻第1号, pp. 91-99)

・福岡泰宏, 木村 浩(電気通信大学)

「4足ロボットの生物規範型不整地適応歩行 体性感覚・前庭感覚による調節」

(第19巻第4号, pp. 510-517)

・齋藤滋規(東京工業大学), 宮崎英樹(物質・材料研究機構), 佐藤知正(東京大学), 高橋邦夫(東京工業大学)

「表面凝着力を考慮した力学に基づく電子顕微鏡下における微小物体操作法分析」

(第20巻第3号, pp. 324-334)

【実用化技術賞】

・川崎晴久, 毛利哲也, 伊藤 聡(岐阜大学), 下村尚之((株)ダイニチ), 松波俊宣(岐阜ギヤー工業(株)), 花田 伸(日晃オートメ(株)), 東輝明(ニツク(株))

「人間型ロボットハンドGifu Hand III」

・菅 和俊, 西澤幸司, 河合俊和, 桃井康行, 宮本 潮((株)日立製作所), 高倉公朋(東京女子医科大学), 小林茂明(信州大学), 橋爪 誠(九州大学), 土肥健純(東京大学), 藤江正克(早稲田大学)

「手術支援のためのマニピュレータ技術」

【研究奨励賞】

- ・伊藤一之(岡山大学)
「QDSEGAによる冗長システムの制御 蛇型ロボットへの適用」
(第20回学術講演会)
- ・大武美保子(東京大学)
「電場応答性高分子ゲルマニビュレータの先端位置制御」
(第20回学術講演会)
- ・梶原秀一(釧路工業高等専門学校)
「トルクユニットを持つ受動的歩行ロボット RWalker Iの歩行解析と歩行実験」
(第20回学術講演会)
- ・神山和人(東京大学)
「触覚情報の遠隔伝達を目的とした触覚センサの研究 設計パラメータの決定および評価」
(第20回学術講演会)
- ・子安大士(大阪大学)
「全方位ステレオ視覚を用いた移動ロボットの自己位置とその誤差の推定」
(第20回学術講演会)
- ・鈴木一郎(東京大学)
「高速動力学計算法を用いた詳細人体モデルに基づく人間の力学計算」
(第20回学術講演会)
- ・鈴木高宏(東京大学)
「人工食道用螺旋スクリュー機構の開発」
(第20回学術講演会)
- ・榎原 靖(大阪大学)
「ユーザとの対話を用いたサービスロボットのための物体認識」
(第20回学術講演会)
- ・光永法明(大阪大学)
「歩行中の観測を考慮した情報量に基づく注視制御」
(第20回学術講演会)
- ・三輪洋靖(早稲田大学)
「ヒューマノイドロボット用心理モデルの機構 学習システム・気分ベクトル・2次情動方程式の導入」
(第20回学術講演会)
- ・横川隆司(東京大学)
「生体分子モータ制御のためのアクチンパターニング技術」
(第20回学術講演会)

【ファナック FA ロボット財団論文賞】

- ・前野隆司, 広光慎一, 河合隆志(慶應義塾大学)
「曲面状弾性フィンガの固着・滑り分布推定に基づく把持力の制御」
(第19巻第1号, pp. 91-99)
- ・清水昌幸, 小菅一弘(東北大学)
「Structured Compliance を用いた平面組付作業」
(第20巻第8号, pp. 852-859)

4. 国際関連

本会に関連する国際会議を共催 / 協賛した .

主な共催会議 :

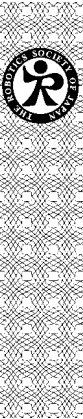
- (a) The 8th International Symposium on Artificial Life & Robotics
(AROB 8th '03)
期日 : 2003 年 1 月 24 日 ~ 1 月 26 日 , 会場 : 別府 , 日本
- (b) The 11th International Conference on Advanced Robotics 2003
(ICAR 2003)
期日 : 2003 年 6 月 30 日 ~ 7 月 3 日 , 会場 : Coimbra , ポルトガル
- (c) 2003 International Symp. on Micromechatronics and Human Science(MHS 2003)
期日 : 2003 年 10 月 19 日 ~ 10 月 22 日 , 会場 : 名古屋 , 日本
- (d) 2003 International Conference on Multisensor Fusion and Integration for Intelligent Systems(MFI 2003)
期日 : 2003 年 10 月 27 日 ~ 11 月 1 日 , 会場 : 東京 , 日本
- (e) 2003 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems(IROS 2003)
期日 : 2003 年 10 月 27 日 ~ 11 月 1 日 , 会場 : Las Vegas , 米国
- (f) 12th IEEE International Workshop on Robot and Human interactive Communication(RO MAN 2003)
期日 : 2003 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日 , 会場 : San Francisco , 米国
- (g) International Symposium on Systems & Human Science for Safe,

Secure and Reliable Society(SSR 2003)

期日 : 2003 年 11 月 19 日 ~ 11 月 20 日 , 会場 : 大阪 , 日本

5. その他活動

国際化検討委員会を2回開催し, 欧文誌の全会員無料配布, 国外在住会員へのサービス, 国際的広報体制について検討を行った. については, 出版費, 配布方法, 事務的負担等を検討し, 主に予算面より現時点では実施が困難であることを確認した. については AR 購読選択制度を確認し, 英字入会申込書の校正版を作成し国外会員勧誘に供することとした. については, 電子化運営委員会に依頼し英文ホームページの拡充を図ることとなった.



【第2号議案】

平成15年度収支決算書報告

I 一般会計

平成15年度収支計算書

平成15年1月1日から平成15年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	決 算 額
1. 基本財産運用収入	6,300
基本財産利息収入	6,300
2. 会費収支	42,220,000
正会員会費	29,460,000
学生会員会費	4,760,000
賛助会員会費	8,000,000
3. 入会金収入	535,000
正会員入会金	140,000
学生会員入会金	395,000
4. 事業収入	31,355,800
会誌掲載料	12,091,800
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	14,300,000
講習会	2,464,000
公開シンポジウム	1,500,000
5. 諸収入	8,444,847
受取利息	460
広告料収入	5,083,166
資料頒布収入	2,844,200
雑収入	517,021
当期収入合計(A)	82,561,947
前期繰越収支差額	26,259,944
収入合計(B)	108,821,891

注1. 公開シンポジウム収入は、文部科学省からの交付金である。

支出の部

(単位：円)

科 目	決 算 額
1. 事業費	40,534,746
会誌事業費	23,316,772
出版費	(14,986,757)
郵送費	(5,193,934)
編集費	(2,247,387)
電子化準備委員会費	(888,694)
欧文誌事業費	3,752,770
編集費	(567,629)
業務委託費	(2,640,000)
出版費	(545,141)
学術講演会開催費	9,686,050
講習会開催費	1,326,195
公開シンポジウム開催費	1,500,005
専門委員会費	300,000
研究専門委員会費	(100,000)
調査専門委員会費	(200,000)
広告制作費	381,433
表彰費	271,521
2. 管理費	32,616,566
総会費	750,725
給料手当	15,847,664
臨時雇賃金	1,642,834
福利厚生費	1,239,123
租税公課	239,500
旅費交通費	45,785
通信運搬費	750,658
備品消耗品費	386,947
会議費	228,185
印刷製本費	1,028,600
光熱水料費	360,051
賃借料	7,087,365
諸謝金	1,306,750
雑費	822,327
会費収納費	880,052
3. 雑損失	914,400
雑損失	914,400
4. 特定預金支出	558,193
退職給与引当預金支出	558,193
5. 予備費	0
予備費	0
当期支出合計(C)	74,623,905
当期収支差額(A)-(C)	7,938,042
次期繰越収支差額(B)-(C)	34,197,986

正味財産増減計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	7,938,042	
退職給与引当預金増加額	558,231	8,496,273
増加額合計		8,496,273
減少の部		
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額		558,231
減少額合計		558,231
当期正味財産増加額		7,938,042
前期繰越正味財産額		50,747,344
期末正味財産合計額		58,685,386

貸借対照表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	(61,084,046)	(流動負債)	(26,886,060)
現 金	975,693	未 払 金	611,000
普 通 預 金	33,746,075	前 受 会 費	25,037,160
振 替 貯 金	19,229,590	前 受 金	638,853
郵 便 貯 金	1,000,035	預 り 金	599,047
未 収 会 費	2,124,000		
未 収 金	2,741,712	(固定負債)	(4,752,415)
前 払 金	1,091,741	退職給与引当金	4,752,415
立 替 金	175,200		
(固定資産)	(29,239,815)	(正味財産)	(58,685,386)
[基本財産]	(21,000,000)	正 味 財 産	58,685,386
定期預金	21,000,000	[うち基本金]	[21,000,000]
[有形固定資産]	(834,300)	[当期正味財産増加額]	[7,938,042]
什器備品	834,300		
[その他の固定資産]	(7,405,515)		
退職給与引当預金	4,752,415		
電話加入権	153,100		
保証金	2,500,000		
資 産 合 計	90,323,861	負 債 ・ 正 味 財 産 合 計	90,323,861

財 産 目 録

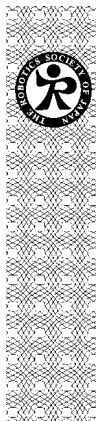
平成 15 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	手許有高	975,693 円
普 通 預 金	東京三菱銀行本店	10,587,471 円
	みずほ銀行本郷支店	10,625,390
	みずほ銀行本郷支店	8,230,688
	りそな銀行本郷支店	4,125,358
	三菱信託銀行本店営業部	177,168
振 替 貯 金	本郷 郵便局	19,229,590
郵 便 貯 金	本郷 郵便局	1,000,035
未 収 会 費	会費 平成 15 年度分	2,124,000
未 収 金	学会誌投稿料・広告料他	2,741,712
	平成 16 年 1 月分事務所家賃	
前 払 金	他	1,091,741
立 替 金	欧文誌購読料	175,200
定期預金	基本財産(東京三菱銀行 自由金利型定期)	21,000,000
什器備品	事務用器具備品	834,300
退職給与引当預金	東京三菱銀行春日町支店	4,752,415
電話加入権	2本	153,100
保証金	賃貸借契約保証金	2,500,000
	資 産 合 計	90,323,861 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
未 払 金	会計顧問料他	611,000 円
前 受 会 費	会費前受分	25,037,160
前 受 金	学会誌広告料	638,853
預 り 金	源泉所得税	217,886 円
	住民税	14,100
	社会保険料	276,061
	欧文誌購買料	91,000
退職給与引当金	退職給与分	4,752,415
	負 債 合 計	31,638,475 円
	差 引 正 味 財 産	58,685,386 円



II 刊行物発行基金

平成 15 年度収支計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
		受 取 利 息	9,370
		雑 収 入	530,000
次期繰越収支差額	37,036,086	前期繰越収支差額	36,496,716
合 計	37,036,086	合 計	37,036,086

正味財産増減計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	539,370	539,370
増加額合計		539,370
当期正味財産増加額		539,370
前期繰越正味財産額		36,496,716
期末正味財産合計額		37,036,086

貸借対照表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
普通預金	17,932,301	仮受金	896,215
定期預金	20,000,000	正味財産 (当期正味財産増加額)	37,036,086 (539,370)
合 計	37,932,301	合 計	37,932,301

財 産 目 録

平成 15 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
普通預金	みずほ銀行本郷支店	8,882,161 円
	三井住友銀行小石川支店	9,050,140
定期預金	東京三菱銀行本店	10,000,000
	りそな銀行本郷支店	10,000,000
資 産 合 計		37,932,301 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
仮受金	学術講演会 (RSJ 2002) 仮払精算残金	896,215 円
負 債 合 計		896,215 円
差 引 正 味 財 産		37,036,086 円

III 学術集会開催基金

平成 15 年度収支計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
次期繰越収支差額	34,279,692	受 取 利 息	9,143
		前期繰越収支差額	34,270,549
合 計	34,279,692	合 計	34,279,692

正味財産増減計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	9,143	9,143
増加額合計		9,143
当期正味財産増加額		9,143
前期繰越正味財産額		34,270,549
期末正味財産合計額		34,279,692

貸借対照表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
普通預金	14,310,307	正味財産	34,279,692
定期預金	19,073,170	(当期正味財産増加額)	(9,143)
未収金	896,215		
合 計	34,279,692	合 計	34,279,692

財 産 目 録

平成 15 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
普通預金	りそな銀行本郷支店	円 14,310,307 円
定期預金	東京三菱銀行本店	6,073,170
	三菱信託銀行本店営業部	13,000,000
未収金	学術講演会 (RSJ 2002) 仮払精算残金	896,215
資 産 合 計		34,279,692 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
		0 円
負 債 合 計		0 円
差 引 正 味 財 産		34,279,692 円

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 15 年度収支計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表 彰 費	96,200	受 取 利 息	406
消 耗 品 費	103,232	雑 収 入	4,259,626
雑 費	143,679	前 期 繰 越 収 支 差 額	8,507,137
次 期 繰 越 収 支 差 額	12,424,058		
合 計	12,767,169	合 計	12,767,169

正味財産増減計算書

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	3,916,921	3,916,921
増加額合計		3,916,921
当期正味財産増加額		3,916,921
前期繰越正味財産額		8,507,137
期末正味財産合計額		12,414,058

賃借対照表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
普 通 預 金	11,724,058	正 味 財 産	12,424,058
仮 払 金	700,000	(当期正味財産増加額)	(3,916,921)
合 計	12,424,058	合 計	12,424,058

財 産 目 録

平成 15 年 12 月 31 日現在

資産の部

科 目	摘 要	金 額
普 通 預 金	りそな銀行本郷支店	11,724,058 円
仮 払 金	IROS 2004 分担金	700,000
資 産 合 計		12,424,058 円

負債の部

科 目	摘 要	金 額
		0 円
負 債 合 計		0 円
差 引 正 味 財 産		12,424,058 円

V 総 括 表

平成 15 年度収支計算書総括表

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

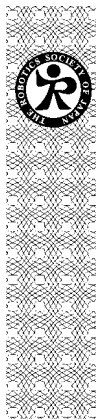
科 目	合 計	一般会計	国際会議及び 共催会議開催基金	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金
収入の部					
基本財産運用収入	6,300	6,300			
会費収入	42,220,000	42,220,000			
入会金収入	535,000	535,000			
事業収入	31,355,800	31,355,800			
諸収入	13,253,392	8,444,847	4,260,032	539,370	9,143
一般会計繰入金	0				
当期収入合計	87,370,492	82,561,947	4,260,032	539,370	9,143
前期繰越収支差額	105,534,346	26,259,944	8,507,137	36,496,716	34,270,549
収入合計	117,937,822	108,821,891	12,767,169	37,036,086	34,279,692
支出の部					
事業費	40,630,946	40,534,746	96,200		
管理費	32,863,477	32,616,566	246,911		
雑損失	914,400	914,400			
特定預金支出	558,193	558,193			
繰入金支出	0				
予備費	0				
当期支出合計	74,967,016	74,623,905	343,111	0	0
当期収支差額	12,403,476	7,938,042	3,916,921	539,370	9,143
次期繰越収支差額	117,937,822	34,197,986	12,424,058	37,036,086	34,279,692

平成 15 年度正味財産増減計算書総括表

平成 15 年 1 月 1 日から平成 15 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際会議及び 共催会議開催基金	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金
増加の部					
資産増加額	12,961,707	8,496,273	3,916,921	539,370	9,143
増加額合計	12,961,707	8,496,273	3,916,921	539,370	9,143
減少の部					
負債増加額	558,231	558,231	0	0	0
減少額合計	558,231	558,231	0	0	0
当期正味財産増加額	12,403,476	7,938,042	3,916,921	539,370	9,143
前期繰越正味財産額	130,021,746	50,747,344	8,507,137	36,496,716	34,270,549
期末正味財産合計額	142,425,222	58,685,386	12,424,058	37,036,086	34,279,692



平成 15 年度貸借対照表総括表

平成 15 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際会議及び 共催会議開催基金	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金
資産の部					
流動資産	145,720,097	61,084,046	12,424,058	37,932,301	34,279,692
固定資産	29,239,815	29,239,815	0	0	0
(うち基本財産)	(21,000,000)	(21,000,000)			
資産合計	174,959,912	90,323,861	12,424,058	37,932,301	34,279,692
負債の部					
流動負債	27,782,275	26,886,060	0	896,215	0
固定負債	4,752,415	4,752,415	0	0	0
負債合計	32,534,690	31,638,475	0	896,215	0
正味財産の部					
正味財産	142,425,222	58,685,386	12,424,058	37,036,086	34,279,692
負債及び正味財産合計	174,959,912	90,323,861	12,424,058	37,932,301	34,279,692

監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会
会 長 吉 川 恒 夫 殿

私共監事 2 名は、この総会資料に記載されている平成 15 年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、刊行物発行基金、学術集会開催基金、国際会議および共催会議開催基金に関する収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも一般に公正妥当と認められる公益法人の会計基準に準拠し、前年度と同一の会計方針を適用しており、また定款の定めに基づいているものと認めます。

記

- 「学会運営特別会計」は「刊行物発行基金」、「学術集会開催基金」に分け、管理を区分した。
- 「国際会議及び共催会議開催基金特別会計」は「国際会議および共催会議開催基金」と表記した。

以上

平成 16 年 3 月 3 日

社団法人 日本ロボット学会

監事 柿 倉 正 義 ㊞

監事 江 尻 正 員 ㊞

【第 3 号議案】

平成 16 年度 事業計画案

(自平成 16 年 1 月 1 日 至平成 16 年 12 月 31 日)

I 庶 務

1. 第 22 回総会

会 期：平成 16 年 3 月 10 日(水)

会 場：本郷瀬川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 会誌編集委員会 | (委員長：生田幸土) |
| (2) 欧文誌委員会 | (委員長：神徳徹雄) |
| (3) 事業計画委員会 | (委員長：高信英明) |
| (4) 国際委員会 | (委員長：中内 靖) |
| (5) 第 22 回学術講演会実行委員会 | (委員長：谷 和男) |
| (6) 第 18 回論文賞選考委員会 | (委員長：内山 隆) |
| (7) 第 19 回研究奨励賞選考委員会 | (委員長：中野栄二) |
| (8) 第 9 回実用化技術賞選考委員会 | (委員長：中野栄二) |
| (9) 出版事業委員会 | (委員長：久保田孝) |
| (10) ロボット工学ハンドブック改定委員会 | (委員長：増田良介) |
| (11) 電子化運営委員会 | (委員長：中野栄二) |
| (12) 国際化検討委員会 | (委員長：内山 隆) |
| (13) アドバイザリーボード | (委員長：吉川恒夫) |
| (14) 将来ビジョン策定委員会 | (委員長：吉川恒夫) |

3. 役員・評議員の選出

平成 16 年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

会員数の増強を図るため、入会勧誘を引き続き推進する。

6. 電子化運営委員会

- Web コンテンツを充実させ、学会の電子化・情報化を進める。
- 学会内イントラを検討する。

7. 事務局

学会の将来ビジョンの考察を深め、中長期的な事務局体制について検討を進める。

II 事 業

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第 22 回学術講演会

期 日：2004 年 9 月 15 日(水)～ 17 日(金)

会 場：岐阜大学柳戸キャンパス

実行委員長：谷 和男(岐阜大学)

プログラム委員長：川崎晴久(岐阜大学)

2. ロボット工学セミナー

(1) 第 26 回シンポジウム「ロボットの作り方 実用化への道」

期 日：2004 年 5 月 28 日(金)(予定)

会 場：東京工業大学大岡山キャンパス

(2) 第 27 回シンポジウム「人とロボットの交差点 ロボットデザイン」

期 日：2004 年 7 月 9 日(金)(予定)

会 場：工学院大学

(3) 第 28 回シンポジウム「レスキューの現状と将来」

期 日：2004 年 11 月(予定)

会 場：工学院大学

3. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

(1) 第 9 回ロボティクスシンポジウム

期 日：2004 年 3 月 8 日(月)～ 9 日(火)

会 場：メルバルク沖縄(那覇市)

実行委員長：横井一仁((独)産業技術総合研究所知能システム研究部門)

プログラム委員長：大隈 久（中央大学理工学部精密機械工学科）

（２）ロボカップジャパンオープン 2004

期 日：2004年5月上旬
会 場：インテックス大阪（大阪）
主 催：ロボカップ日本委員会，ロボカップジャパンオープン 2004 実行委員会

（３）第15回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2004年6月26日(土)～27日(日)
会 場：仙台市科学館（仙台市青葉区）
主 催：ロボット競技会実行委員会，メカトロで遊ぶ会

4. 出版事業

「新版ロボット工学ハンドブック」の本年度中発行を目指す。

III 学 会 誌

学会誌第22巻第1号より第8号を1月，3月，4月，5月，7月，8月，10月，11月に刊行し，会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

- Vol. 22 No. 1 HRPの成果と人間型ロボットの今後の展開
- Vol. 22 No. 2 ロボットの運動学習
- Vol. 22 No. 3 ロボット知財
- Vol. 22 No. 4 メディカルロボティクス（仮）
- Vol. 22 No. 5 大都市震災軽減化特別プロジェクト（仮）
- Vol. 22 No. 6 水中ロボティクス（仮）
- Vol. 22 No. 7 ロボットシティー（仮）
- Vol. 22 No. 8 ロボットデザイン（仮）

平成16年度は，15年度に続き，会誌編集プロセス，査読プロセスの両者の抜本的な見直しを行い，それぞれの作業の効率化，高速化を図る。会誌編集に関しては，幸い約1年以上先の特集企画まで魅力的な企画提案が会誌委員から出されている。論文査読プロセス改善に関しては，昨年度に大筋の合意が得られているので，新査読小委員会委員長を含む委員会で，次年度実施に向けて議論を詰め，具体的な体制作り，規定類の整備を急ぐ予定である。さらに，学術講演会と連動させた特急査読方式など，他の学会で好評な新査読方式など，新戦略の試行も検討し，査読システム改革のアピールを図る。

同時に，電子化運営委員会との連携を強化し，情報発信としての会誌ホームページの充実だけでなく，会誌編集，査読プロセスなど総合的な電子化による効率化を図る。

IV 欧 文 誌

1. 欧文誌 Advanced Robotics の発行計画

下記のとおり，2004年度においては年10回の発行を計画している。

- Vol. 18 No. 1 一般論文
- Vol. 18 No. 2 特集号：Service Robots in Space（1）
- Vol. 18 No. 3 一般論文（含特集：Service Robots in Space（2））
- Vol. 18 No. 4 一般論文
- Vol. 18 No. 5 特集号：Assistive Robots
- Vol. 18 No. 6 一般論文
- Vol. 18 No. 7 特集号：RoboCup Humanoids
- Vol. 18 No. 8 特集号：Selected Papers from ICAR 2003
- Vol. 18 No. 9 特集号：Selected Papers from IROS 2003
- Vol. 18 No. 10 一般論文

2. 欧文誌の国際的認知度向上のための努力

前年度に引き続き一般論文の投稿数と購読数の増大等を通じて国際的認知度のさらなる向上を目指す。

年内に掲載論文の半数を一般投稿論文とすることを目指し，次のことを実行する。(1) インパクトファクターの向上のために，引き続きさまざまな工夫を行う。(2) IROS等の本学会主催行事と連携して，優れた論文の投稿や定期購読を勧誘する。(3) 投稿者にとっての魅力の向上に努力する。

また，欧文誌査読委員の国際化に伴い，国際会議（IEEE/RSJ IROSおよびIEEE ICRA）において国際編集委員会を開催する。

3. 電子化の推進

前年度に引き続き，会誌編集委員会，電子化運営委員会，共同事業者

である Brill/VSP とも協力して，投稿・査読・編集プロセスの電子化を推進する。それによって，投稿を容易にし，投稿から出版までのターンアラウンドタイムを短縮するとともに，編集出版事務の効率化を図っていく。

V 企 画

1. 調査・研究専門委員会活動

前年度より継続の以下の調査・研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

- 2003年度から継続の研究専門委員会
- ・ロボット聴覚研究専門委員会
（委員長：奥乃 博，2003.7発足）
- ・学術講演会調査研究委員会
（委員長：小林 宏，2003.7発足）

また，本年度より以下の研究専門委員会を発足させる。

- ・サービスロボット用安全認証研究専門委員会
（委員長：梅谷陽二，2004.1発足）

なお，研究専門委員会の設置は，会員からの申請により当学会にとって必要な研究とそれに伴う調査・研究を行うことを目的として承認される。申請時期は，1月発足で前年9月末，7月発足で当年3月末までであるので，積極的な申請をうながしていきたい。

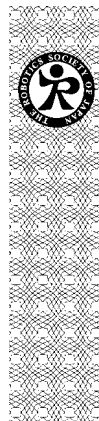
2. 表彰

第22回学術講演会において，論文賞，実用化技術賞および研究奨励賞の表彰を行う。なお，研究奨励賞の選考は表彰規定変更に伴いすでに完了している。

3. 国際関連

主な共催会議予定：

- (a) 第9回人工生命とロボットに関するシンポジウム（AROB 9th '04）
期日：2004年1月28日～30日，会場：別府，日本
- (b) The Japan USA Symposium on Flexible Automation（2004 JUSFA）
期日：2004年7月17日～21日，会場：デンバー，米国
- (c) 13th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactiv Communication（RO MAN 2004）
期日：2004年9月20日～22日，会場：倉敷，日本
- (d) 2004 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems（IROS 2004）
期日：2004年9月28日～10月2日，会場：仙台，日本
- (e) 第4回先端メカトロニクス国際会議（ICAM '04）
期日：2004年10月3日～5日，会場：旭川，日本



【第4号議案】

平成16年度収支予算書(案)

I 一般会計

平成16年1月1日から平成16年12月31日まで

収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額
1. 基本財産運用収入	6,000
基本財産利息収入	6,000
2. 会費収入	41,154,000
正会員会費	29,070,000
学生会員会費	4,244,000
賛助会員会費	7,840,000
3. 入会金収入	540,000
正会員入会金	140,000
学生会員入会金	400,000
4. 事業収入	29,430,000
会誌掲載料	15,000,000
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	11,750,000
講習会	1,680,000
公開シンポジウム	0
5. 諸収入	7,700,500
利息収入	500
広告料収入	4,000,000
資料頒布収入	3,200,000
雑収入	500,000
当期収入合計(A)	78,830,500
前期繰越収支差額	34,197,986
収入合計(B)	113,028,486

注1. 借入金限度額 0円

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額
1. 事業費	46,490,000
会誌事業費	27,300,000
出版費	(18,000,000)
郵送費	(5,300,000)
編集費	(3,000,000)
電子化運営委員会費	(1,000,000)
欧文誌事業費	4,040,000
編集費	(800,000)
業務委託費	(2,640,000)
出版費	(600,000)
学術講演会開催費	11,750,000
講習会開催費	1,600,000
公開シンポジウム開催費	0
専門委員会費	400,000
研究専門委員会費	(300,000)
調査専門委員会費	(100,000)
広告制作費	400,000
表彰費	1,000,000
2. 管理費	37,150,000
総給料手当	750,000
臨時雇賃金	17,670,000
福利厚生費	2,100,000
旅費交通費	1,500,000
通信運搬費	180,000
備品消耗品費	1,200,000
会議費	1,000,000
印刷製本費	600,000
光熱水料費	1,000,000
賃借料	500,000
諸謝金	7,200,000
租税公課	1,300,000
雑費	800,000
会費収納費	600,000
雑損失	750,000
3. 雑損失	1,300,000
雑損失	1,300,000
4. 特定預金支出	1,000,000
退職給与引当預金支出	1,000,000
5. 繰入金支出	177,168
学術集会開催基金繰入金支出	177,168
刊行物発行基金繰入金支出	0
6. 予備費	1,000,000
予備費	1,000,000
当期支出合計(C)	87,117,168
当期収支差額(A)-(C)	8,286,668
次期繰越収支差額(B)-(C)	25,911,318

注1. 債務負担額 0円

II 刊行物発行基金

平成 16 年度刊行物発行基金収支予算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

収入の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業収入	0	
2 利息収入	15,000	
3 雑収入	0	
4 一般会計より繰入	0	
当期収入合計	15,000	
前期繰越収支差額	37,036,086	
収入合計	37,051,086	
支出の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業費	0	
2 雑損失	0	
当期支出合計	0	
当期収支差額	15,000	
次期繰越収支差額	37,051,086	

III 学術集会開催基金

平成 16 年度学術集会開催基金収支予算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

収入の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業収入	0	
2 利息収入	15,000	
3 雑収入	0	
4 一般会計より繰入	177,168	
当期収入合計	192,168	
前期繰越収支差額	34,279,692	
収入合計	34,471,860	
支出の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業費	0	
2 雑損失	0	
当期支出合計	0	
当期収支差額	192,168	
次期繰越収支差額	34,471,860	

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 16 年度国際会議および共催会議開催基金収支予算書

平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 12 月 31 日まで

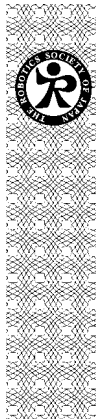
収入の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業収入	0	
2 利息収入	1,000	
3 雑収入	0	
4 一般会計よりの繰入	0	
当期収入合計	1,000	
前期繰越収支差額	12,424,058	
収入合計	12,425,058	
支出の部		(単位：円)
科 目	予 算 額	
1 事業費	820,000	
表彰費	300,000	
国際会議派遣費	500,000	
雑費	20,000	
2 雑損失	0	
当期支出合計	820,000	
当期収支差額	819,000	
次期繰越収支差額	11,605,058	

【第 5 号議案】

個人会員除名処分件

日本ロボット学会定款の第 11 条(2)に基づき除名処分を行う。
除名対象者数を以下に示す。

正会員	49 名
学生会員	87 名
合 計	136 名



(社)日本ロボット学会平成16・17年度(2004・2005年度)役員

正会員による選挙を経て、第22回通常総会において次のとおり選挙されました。

<p>理 事 会 長 吉川 恒夫(京都大学)</p> <p>副会長 内山 隆((株)富士通研究所)</p> <p>中野 榮二(東北大学)</p> <p>庶務 柳原 好孝(東急建設(株))</p> <p>* 増田 良介(東海大学)</p> <p>財務 石田 健蔵(ソニー(株))</p> <p>* 樋口 峰夫(三菱電機(株))</p> <p>* 橋本 英昭((株)東芝)</p> <p>企画 中内 靖(筑波大学)</p> <p>* 上田 澄廣(川崎重工業(株))</p> <p>* 下倉健一郎(日本電信電話(株))</p>	<p>会誌 生田 幸士(名古屋大学)</p> <p>* 淺間 一(東京大学)</p> <p>欧文誌 神徳 徹雄(産業技術総合研究所)</p> <p>* 山海 嘉之(筑波大学)</p> <p>事業 谷 和男(岐阜大学)</p> <p>高信 英明(工学院大学)</p> <p>* 吉田 和夫(慶應義塾大学)</p> <p>* 堀 俊夫(産業技術総合研究所)</p> <p>* 久保田 孝(宇宙航空研究開発機構)</p>	<p>監 事 江尻 正員(元(株)日立製作所)</p> <p>* 大島 正毅(東京海洋大学)</p>
---	--	---

* 印 2004・2005年度 新役員

(社)日本ロボット学会平成16・17年度(2004・2005年度)評議員(50音順)

池浦 良淳(三重大学)	皿田 滋(産業技術総合研究所)	星野 洋(松下電工(株))
石川 友彦((株)三友製作所)	末廣 尚士(産業技術総合研究所)	本間 敬子(産業技術総合研究所)
石黒 浩(大阪大学)	鈴木 慎一(北海道立工業試験場)	増田 峰知(三重県科学技術振興センター)
上野 浩史(宇宙航空研究開発機構)	高梨 伸彰(日本電気(株))	向井 利春(理化学研究所)
大石 潔(長岡技術科学大学)	高橋 宏(日産自動車(株))	村上 弘記(石川島播磨重工業(株))
岡 潔(日本原子力研究所)	田所 諭(神戸大学)	村瀬 有一((株)富士通研究所)
柿倉 正義(東京電機大学)	東條 直人(三洋電機(株))	森島 昭男(名古屋大学)
梶川 伸哉(秋田県立大学)	中嶋 勝己(川崎重工業(株))	柳田 康幸((株)国際電気通信基礎技術研究所)
刈谷 学(高知県工業技術センター)	中野 殖夫(イワヤ(株))	山北 昌毅(東京工業大学)
川路 茂保(熊本大学)	橋本 浩一(東京大学)	山崎 信行(慶應義塾大学)
衣笠 哲也(岡山理科大学)	浜田 朋之((株)日立製作所)	山田 陽滋(豊田工業大学)
小林 宏(東京理科大学)	林 憲玉(神奈川工科大学)	吉田 和弘(東京工業大学)
榊 泰輔(九州産業大学)	日浦 亮太(三菱重工業(株))	吉田 和哉(東北大学)
佐久間一郎(東京大学)	広瀬 茂男(東京工業大学)	吉見 卓((株)東芝)
佐野 明人(名古屋工業大学)	深瀬勇太郎(清水建設(株))	

(社)日本ロボット学会平成15・16年度(2003・2004年度)評議員(50音順)

新井 健生(大阪大学)	小菅 一弘(東北大学)	田中 雅人((株)安川電機)
荒井 裕彦(産業技術総合研究所)	神原 伸介(ファナック(株))	長尾 信一(北海道立工業試験場)
五百井 清(近畿大学)	澤 洋一郎(沼津工業高等専門学校)	中嶋 新一(新潟工科大学)
出澤 正徳(電気通信大学)	下笹 洋一(総合警備保障(株))	永嶋 史朗((株)富士通研究所)
伊東 明俊(東京電機大学)	下山 勲(東京大学)	秦 清治(香川大学)
稲葉 昭夫(岐阜県生産情報技術研究所)	杉本 旭(北九州市立大学)	前山 祥一(大阪電気通信大学)
井上 健司(大阪大学)	高橋 隆行(東北大学)	松野 文俊(電気通信大学)
岡本 修(茨城工業高等専門学校)	高橋 友一(名城大学)	松日楽信人((株)東芝)
岡 宏一(高知工科大学)	高本 陽一((株)テムザック)	山崎 宗重((株)安川電機)
菅 和俊((株)日立製作所)	武田 宗久(三菱電機(株))	
倉爪 亮(九州大学)	田代 泰典((株)ナムコ)	